

《担当者名》染木 布充(非)

【概要】

1. フランス語はフランス文化と相互作用を起こしながら発展・形成してきた言語である。フランス語を取り巻く環境や文化、あるいは歴史的背景を理解することで現代フランス語を体系的に修得する。
2. 1066年のノルマン(フランス人ギヨム2世)コンクエスト(征服)により、イングランドの支配階級はノルマン(フランス人)となり、法廷、政治(議会)、軍隊、宮廷、教育の用語はフランス語が使われた。中期英語はフランス語の多大な影響を受けたのである。そのようなフランス語を、第二外国語として修得することで、英語の源流の一つを垣間見る契機とする。
3. フランス語固有の特徴を理解する。

【学修目標】

1. フランス語はローマ字式には発音しない。綴り字(スペル)と発音の関係を規定する「規則」を学ぶことで、正確に発音できるようにする。
2. フランス語の全ての基本文型には必ず主語と動詞がある。「～が。」「～に。」「～を。」「～かと。」という言い方はフランス語では成立しない。主語と動詞を省くことなく、明確な文を作る習慣を身につける。基本6文型のうち基本3文型を修得する。
3. 主語に応じて動詞の形(スペル)が変わる「活用」を理解することで動詞を正しく使うことができる。
4. フランス語の名詞や形容詞や代名詞には文法上の性別があることを認識し、簡潔な文を作ることができる。
5. フランス語の冠詞(英語ならthe, a, an, some)のルールを理解し、適切な表現ができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	「ポンジュール」とは発音しない	母音、子音(特にrとlの発音)、鼻音を発音できる。	染木
2	「警察」は女性名詞	名詞の文法上の性別を理解する。フランス語のアルファベットを発音できる。	染木
3	性・数一致の原則	形容詞の性と数を学ぶ。曜日や季節や数字をフランス語で言えるようになる。	染木
4	基本3文型1)	第1文型 主語+動詞 第2文型 主語+動詞+属詞 第3文型 主語+動詞+直接目的語を理解し、マスターすることでフランス語の基礎を強固にことができる。	染木
5	基本3文型2) 基本文法用語	主語(人称代名詞)とは何か? 動詞(自動詞、他動詞、非人称動詞)とは何か? 属詞とは何か? 直接目的語とは何か? 前置詞とは何か? 等々基本文法用語を学ぶことで基本3文型の理解を深めることができる。	染木
6	冠詞がわからないと、フランス語は理解不能の言語	不定冠詞、定冠詞、部分冠詞の使い方を学ぶことで、正確な表現ができる。	染木
7	「活用」	フランス語は主語と動詞がないと文が成立しない。主語に応じて動詞のカタチ(スペル)が変わる「活用」という考え方を理解することでフランス語の基礎を強固にことができる。	染木
8	主語とは何か?	第1文型 名詞の機能および主語と動詞の関係を理解できるようになる。 三人称と活用の理解を深めることができる。	染木
9	第2文型の復習 主語+動詞+属詞 フランス語には助詞は不要	「マリー です 看護師」という語順を深く理解し、フランス語では助詞を使わないことを学ぶ。さらに、フランス語特有の「属詞」の理解を深めることができる。	染木
10	形容詞	名詞を修飾する機能の他に、属詞としての形容詞を学ぶことで、形容詞を的確に使い分けることができる。	染木
11	疑問文	3種類の疑問文を作ることができる。	染木
12	否定文	否定文を作ることができる。	染木

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
13	第3文型の復習 主語 + 動詞 + 直接目的語 人称代名詞	主語や補語として機能する人称代名詞を学ぶことで表現の幅を広げることができる。	染木
14	副詞と前置詞	副詞と前置詞の使い方をマスターすることで、深みのある正確な文を作ることができる。	染木
15	三つの文型・疑問文・否定文の復習	簡単な日常会話を話すことができる。	染木

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験 90% (ただし、ノート持ち込み可) 平常点 10%

【教科書】

隨時プリントを配布するので、特定の教科書は用いない。

【参考書】

特になし

【備考】

仏和辞典（種類は問わない）を購入してください。

【学修の準備】

復習をするようにしてください。特に、[r]のようなフランス語特有の発音を練習してください。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP5,4

【実務経験】

M&Aが盛んに行われる国際ビジネスの現場でフランスの主要企業の日本法人においてマーケティングや広報等の責任者、後に金融テクノロジーを駆使する高度に複雑化した国際金融界でフランスの銀行の駐日首席代表を務めた。

【実務経験を活かした教育内容】

国際金融（ビジネス）マンとしての実務経験を通じて得た知識・態度等を活用し、ヨーロッパ（EU）の思考フレームワークに通じる実践的教育を行う。具体的には、フランス語交渉力の基礎を培うことでボーダレス化に対応する。